

自分たちで創る学校を目指して

令和5年4月1日に「こども基本法」がスタートしました。これは、日本の子ども達にとってもそうですが、大人や学校にも間違いなく大切な法律となるはずです。

こども基本法の目標として

すべての子どもが・・・

- ◎一人の人として大切にされ、人権を守られ、差別を受けない
- ◎愛されながら、きちんと育てられ、幸せになる権利を守られる
- ◎教育を受ける機会を平等にあたえられる
- ◎自分に直接かかわるすべてのことについて、意見を言う機会があたえられる
- ◎意見を大切にされ、子どもにとって何が一番良いのかが大切にされる

そういう社会をつくるために・・・

- ◎国や自治体は子どものための取り組みを考え、子どもの意見も反映させ、実行する
となっています。

ベルギーなどの国や地域では、「子どもや若者の政策を決めるとき、政府は子ども達と話し合わなければならない」と定めているそうです。また、スコットランドには14歳～25歳の若者による「若者議会」と14歳未満の子どもによる「子ども議会」があり、メンバーは選挙で選ばれ、首相や大臣と年に1回、会合を開いて、合意した内容を取りまとめているということです。

本校では4月27日（木）の昼休み、生徒達による会議「生徒議会（仮称）」が生徒会室で行われました。

参加者は生徒会執行部の7名、生活環境委員長、図書委員長、放送委員長、給食委員長、学校記録委員長、野球部部长、陸上部部长、総合文化部部长、バスケットボール部部长、1学年室長、2学年室長、3学年室長、生徒会顧問の先生で総勢21名。会議の内容から席の隊形・順番まで全て生徒会執行部で考えたようです。

いわゆるカンペはありません。大まかな流れを書いた原稿はありますが、自分の言葉で4月の活動状況を報告し、5月の取り組み、執行部からの議題について、意見・要望の順で話し合われました。執行部から提案された議題は2点「給食の残食を減らすためにどうしたら良いか?」「部活動が新体制になってどうなったか?」も活発に話し合われました。

生徒による生徒のための議会は生徒会執行部の司会で、和やかな中にもキリッと進められ、たまに出る参加者からの笑い声もまた会議の潤滑油であり、あっという間の25分間でした。

後日「生徒議会クラスルーム」に私は、こんなメッセージを送りました。

「4月27日（木）の生徒議会お疲れ様でした。最初の議会でしたが、とても立派だったと思います。みなさんからの活動状況の報告も良かったですが、要望や意見が出たのがとても良かったですね！また、『〇〇の取り組みが良かった』という感謝や労（ねぎら）いの言葉も良かったですね！自分たちの学校を自分たちで創ってみてください。生徒議会で決まったことや、やりたいことを私はできる限り尊重したいと思っています。自分たちの力で上北管内28校の中で最高の学校を創り上げましょう！私も『上北管内28校中で最高の教育を皆さんに届ける』を目標にこれからも頑張ります！！」

子ども達自身が自分達で創り上げる学校は今、始まったばかりです。

（5月8日 更新）